

2000 年 11 月 28 日

於国立民族学博物館

喉歌フーミーとモンゴル(人民共和)国の芸能政策

—現代モンゴル・フーミーの成立—

上村明

0. はじめに

モンゴル人民共和国の国民統合において、「芸能」は重要な役割を担ってきた。本発表は、モンゴル(人民共和)国の芸能政策のなかで、現在おこなわれているモンゴル・フーミーのスタイルが、どのように形成されてきたかを明らかにしようとする。

1. アルタイ山脈周辺の歴史と民族 人々の移動(戦争・婚姻などによる)・文化の移動

モンゴル帝国時代

○森の民(狩猟が主+遊牧)の位置づけ

北元以降 1368- オイラド~ジュンガル(西モンゴル)の支配

○バシキールの一部は一時ジュンガルにしたがう

○1630 年ごろ、トルゴードがボルガ川流域に移動

1771 年、新疆に戻る→残ったのがカルムイク

清朝

現在の民族分類の大枠ができる

ジュンガル征服後、オリアンハイ(ウリヤンハイ)三部に分ける

タンヌ・オリアンハイ部 トゥバ共和国とフブスグル湖地方

アルタイ・オリアンハイ部 モンゴル国と中国新疆のアルタイ
山脈地方

アルタイノール・オリアンハイ部

アルタイ共和国南部

ロシア革命以降(1917-)

民族名称つき国家の成立

*新しい民族-国民(нация)と民族-国民文化の創造

2. モンゴル人民共和国の芸能政策 近代国家建設の手段としての「芸能」

20 年代~40 年代(革命初期) 芸能は「革命の武器」

「印刷資本主義」の欠如(革命前の識字率 0.7%)

「クラブ」が行政単位ごとに作られ、党の指導によりアマチュア芸能者が組織。

スターリン・テーゼの実践

「民族形式をもちかつ革命的内容をもつ良質の芸能運動を中央・地方に組織し、それにより封建的・マンジュ的残滓を完全に除去するとともに、民衆の革命的文化を急速に発展させることは、今日党政府の直面する重要課題の中でもとくに重要である」

1935 年第 11 回(人民革命)党中央委員会幹部会議決議

50 年代～60 年代（社会主義建設期） あたらしい民族(国民)文化の創造

アマチュア芸能者コンテスト

才能あるアマチュア芸能者の発掘

大衆運動としての動員の規模の拡大

「経済、文化、科学の発達と、発展しつつある社会主義部門の活動、指導者たちの創造的業績、モンゴル＝ソ連および民主化された国々との友好関係を描いた新しい作品を創造する」

1956 年『全国規模のアマチュア才能者コンテストを行う』党中央委員会政治局決議

70 年代～80 年代(社会主義成熟期 テレビ・ラジオ時代)

「伝統」芸能あるいは「純粋な」民間芸能の探求

アマチュア芸能コンテストの性格の変化

1983 年第 1 回「民間伝統芸能祭」“Ардын язгуур урлагийн наадам”

『「民族」芸能』から『「ルーツ」芸能』の発掘

「本当の」(authentic)「土地にむすびついた根っこ」の芸能

革命の武器から自分たちのルーツ探求・アイデンティティ発見の手段へ

芸能としての完成度の要求

地方から中央へのピラミッド型の選抜方式

—> 芸能者に対する「芸術性」と「土着性」両方の要求

「人民の歌謡・音楽・舞踊などを収集する芸能研究者の調査を年一回行う」

1982 年党中央委員会発令公的任務第 54 号

3．現代モンゴル・フーミーの成立

モンゴル・フーミー(フーメイ)の原型

山や川など自分の生まれた土地を太い声で称えてから、フーミーを歌う

例 ゲンデン(バヤド人) 1951 年「人民革命 30 周年アマチュア芸能者大会」

Алтай хангай нутагтай билээ

アルタイ・ハンガイの故郷をもつ

Арван баяд угсаатан билээ

十バヤド人の血筋なり

というような歌詞の各行につづけてフーミーを歌っていた。

* 歌詞を歌う部分は、英雄叙事詩の語り方「ハイラハ」に類似、テンポより速い

* フーミーを歌う長さ 一回の息継ぎの長さ

合唱曲のなかのフーミー・パート 『アルタイ・ハン讃詞』D・ロブサンシャラブ編曲

ホブド県チャンダマニ郡ツェデー 1954 年「ホブド県文化芸能旬間」(首都開催)

D・ロブサンシャラブ(1926-) モンゴルの国民的作曲家、ソ連の

Ф.И.Клешкоの指導のもとに合唱曲(和声)を学び、1952-54 年ホ

ブド歌劇場で和声を教える

- * 歌詞～フーミーという時系列的なスタイルを合唱曲という和声のスタイルに変換
→フーミー・パートはフーミーだけを歌う

現代モンゴル・フーミーの創出

国立歌劇場所属 G・チミドルジ

ツェデーのフーミーに注目、ボギノ・ドー(短い歌)と呼ばれるモンゴル民謡の歌詞を歌わずメロディーだけをフーミーで歌う(独唱)スタイルを創出。フーミー・パートの独立化。

「フーメイの新段階」(J・バドラー)

- * フーミー歌う長さのびた。
- * さまざまなメロディーを美しくフーミーで歌う基礎ができた

○ソ連からの合唱形式の導入を機に生まれた新しい「民族文化」の例

党中央委員会政治局も高く評価

(モンゴルの伝統的な宴で歌われる歌での斉唱形式を基礎にして、あたらしい合唱文化を形成しようという意図があった。現代フーミーの成立はその副産物。)

4 . フーミーについての本質主義的言説の形成

1982 年製作テレビ・ドキュメンタリー『モンゴル・フーメイ』脚本 J・バドラー

その後のフーミーについての言説の典拠になるドキュメンタリー

- * ホブド県チャンダマニ郡での撮影
- * ツォールの演奏「エーウ川の流れ」の挿入による起源伝説の流用
- * ツェレンダワー 習得のむずかしさ(一月食べ物がのどを通らなかった)

フーミーの分類

ハルヒラー

鼻・口蓋・喉・咽頭・胸腔のフーミー

「アルタイ讃詞」実演

J・バドラー 1983 年 1988 年の「民間伝統芸能祭」のプログラムの作成者

「民間伝統芸能」 “ардын язгуур урлаг” という用語の発案者？

「近代になされた革新にくらべて、より多くの伝統的で淘汰された要素が残されているもの」「英語では“authentic folkart”にあたる」
→「真正さ」「authenticity」の概念の導入

「古典 Selected 伝統芸能」としての「フーミー」と「オルティン・ドー」の
国際的舞台への紹介者

近代的モンゴル・ナショナリズムの概念装置を創出してきたひとり

「母国=モンゴル」という情緒的概念装置

—ソ連からの導入 “Мать Россия” “Родина-мать”

「熱き身内のわが故郷」“Халуун элгэн нутаг минь”(曲
Ц.Намсрайжав, 60年代初め)の作詞者

身体の内より結ばれた

(第2節以下は「肝臓」「心臓」で置き換えられる)

愛するモンゴルのわが故郷

父母と運命で結ばれた

わが至宝の金のゆりかご

* 自己と国家との関係を血のつながりによって表象した最初の歌

→「フーミー」の本質主義的言説の創出に十分な資格

5. ポスト社会主義時代(90年代から)のフーミー

「芸能」の国際市場での流通 国家の名前を張られパッケージ化される

○「フーミー」のユネスコに対するモンゴル国による著作権の主張

○その起源とされる英雄叙事詩の語りへの注目

現代フーミーの基礎となった「アルタイ讃詞」を伝統的なうたい方で歌う
叙事詩の語り手 B・アビルメドが 1991 年国家賞を授与される

1996 年「中央アジア叙事詩シンポジウム・フェスティバル」

→「フーミー」がモンゴル国伝統の「真正な」芸能から生まれたという主張

○芸能としての完成度の要求さらに強まる

→「真正さ」を主張する叙事詩の語り手と「芸術性」をになう職業芸能者
との役割分担・すみわけ

*「伝統的」な語りにもとづき、しかも国際市場にも通用する語り手=フーミー歌手
の登場—ロシア・カルムィキア共和国(ハリマグ・タンガチ・オルス)のオクナ・ツァガ
ーンザムの例

6. おわりに

ユネスコの世界遺産に無形文化財を登録するプログラムが開始されており、モンゴル・フーミ
ーとトゥバ・フーメイの「本家」あるいは「元祖」論争(?)は活発化しそう。「伝統」の成立の過
程の「学問的」解明は、「暴露」的な言説になりがちで、記述の対象となる人々の「自己を表象
する権利」の問題に抵触する可能性がある。いっぽうで、現代の国民統合には「科学的」根拠が
必要で、フーミー、フーメイの学問的研究も続ける必要がある。

表1 アルタイ山脈周辺の nation と「喉歌」

	英雄叙事詩(高音のないホーミー)	ホーミー	ツォール(高音は笛で)	山の主	
アルタイ・オリアイ(モンゴル国・新疆)	тууль(名詞) хайлах(動詞)	хөөмий хөөмэй	цуур	алтайн эээн	ツォールの伝説 叙事詩は「主」に捧げる
トゥバ(共和国)	тоол хайлар	хөөмей	шоор	даг ээзи	
アルタイ(共和国)	кай		шоор	таг ээзи	アルタイ・オリアイに共通の ツォールの伝説の存在
シヨル(ロシア連邦ケメロヴォ州)	кай			таг ээзи	
ハカス(共和国)	хай	хай		таг ээзи	アルタイ・オリアイに類似の トブシヨールの伝説の存在
カルムイク(ハリマグ・タンガチ・オルス)	ут тууль				
バシキール(バシコルトスタン共和国)		uzlyau	kuray		

表2 モンゴル(人民共和)国略年表

- 1911 清朝からの独立宣言。
- 1921 人民革命
- 1924 人民共和国制移行。
- 1931 「モンゴルラジオ」設立。
- 1939 ハルハ河会戦(ノモンハン事件)
- 1967 首都でテレビ放送開始。
- 1979 都市人口、全人口の2分の1を上回る。
- 1989 牧畜従事者数、全就労人口の3分の1を割り込む。
- 1990 複数政党制導入。
- 1992 新憲法制定。モンゴル人民共和国からモンゴル国に。

Ｊ・バドラー Жамцын Бадраа(1926-199?)略歴

作詞家でもある、民俗音楽研究者のＪ・バドラーは、1926年フブスグル県ブレンハーン・ソム生まれ。1948年に人民革命党入党。モンゴル国立大学1950年卒。著作活動は1959年から始める。学校教師、国家ラジオ委員会編集者、新聞・雑誌の文学分野担当などを経る。その後、インドに留学、ヒンディー文学を専攻し、タゴールの詩などを翻訳する。1983年の第1回「民間伝統芸能祭」のプログラムを作成。現在のモンゴル人の愛唱歌となっている数多くの歌詞を作詞した。

DISCOGRAPHY

- “Uzlyau, Guttural singing of the peoples of the Sayan, Altai, and Ural Mountains”, 1993, PAN2019.
“Mongolie: Chants kazakh et tradition épique de l'Ouest”, OCORA Radio France, 1993.
(Enregistrements effectués en octobre 1984 et août 1990, en Mongolie, par Alain Desjacques)
“Chants Épiques et Diphoniques, Asie centrale, Sibérie / Touva, Chor, Kalmouk, Tadjik, Vol.1”, 1996, INÉDIT
“Jargalant Altai, Xöömii and other vocal and instrumental music from Mongolia”, 1996, PAN2050.
“Жанһр” Ойна Цаһан зам (「ジャンガル」オクナ・ツァガンザム)

映像資料

- Бадраа, Ж. 1982. *Монгол хөөмэй*. Телекино үйлдвэр. (テレビ・ドキュメンタリー『モンゴル・フーメイ』)
Дожоодорж 1983. *Ардын язгуур урлаг*. Телекино үйлдвэр. (テレビ・ドキュメンタリー『民間伝統芸能』)
Монгол телэвиз 1988. *Ардын язгуур урлагийн улсын II их наадмын өмнө*. (モンゴル・テレビ「第2回全国民間伝統芸能祭を前に」1988.4.23 放映.)

文献資料

- Бадраа, Ж. 1998. *Монгол ардын хөгжим*. УБ. (J・バドラー『モンゴル民俗音楽』)
Bendix, R. 1997. *In Search of Authenticity : The Formation of Folklore Studies*. Univ. of Winsconsin Press.
Болдбаатар, Ж. 1996. Бодол чивчиргэн, үг туниу миний нөхөр : Зохиогчийн тухай зориглон хэлэх хэдэн үг, Жанцанноров 1996-д.
Bulag, Uradyn E. 1998. *Nationalism and Hybridity in Mongolia*. Oxford.
Энэбиш, Ж. 1991. *Хөгжмийн уламжлал шинэчлэлийн асуудалд*. УБ. (J・エネビシ「音楽における伝統と革新の問題」)
Жанцанноров, Н. 1996. *Монголын хөгжмийн арван хоёр хөрөг(сонатын аллегро)*. УБ. (N・ジャンツァンノロブ「モンゴル音楽の12人の肖像(ソナタ・アレグロ)」)
上村 明 1996.「アルタイ・オリアンハイの宴の歌」『日本モンゴル学会紀要』No.26(1995),pp.1-15.
上村 明 2000a.「国民芸能としての英雄叙事詩」『日本モンゴル学会紀要』No.30(2000),pp.1-26.
上村 明 2000b.「オイラド」「オリアンハイ」綾部恒雄編『世界民族事典』弘文堂.
近藤和正 1998.「フーミーの調音音声学的分析試論」『日本モンゴル学会紀要』No.28(1997), pp.99-106.
近藤和正 2000.『喉歌の生理的発音メカニズムの検証』東京外国語大学提出修士論文.
Mergejikü et al. 1997. Mongγul-un dayuu kögjim-ün sudulul. Šinjīyang-un arad-un keblel-ün qoriy-a. (莫爾吉夫 他, 1997.『蒙古音楽研究』新疆人民出版社.)
MAXH-aac урлаг-утга зохиолын талаар гаргасан тогтоол шийдвэрүүд(1921-1966). 1967. УБ.(モンゴル人民革命党芸術文学関連議定集(1921-1966))
Oinas, Felix, ed. 1978. *Folklore, Nationalism and Politics*. Columbus, Ohio: Slavica.
Сампилдэндэв, Х. 1989. Өмнөх үг. Ж. Бадраа, Чандмань эрдэнэ-д. УБ. (H・サンピルデン ^{チャンダマニ・エルデネ} デブ「前書」J・バドラー『如意宝珠』)
Саруулбуян, Ж. 1991. Алтай дэлхийн эзэн туульч Б.Авирмэд гэв гэнэ. “Зохист аялгуу” сонин, 1991, No.7. УБ. (J・サロールボヤン「アルタイの主、叙事詩の語り手B・アビルメドと言ひし」『ゾヒスト・アヤルゴー』紙)
Саруулбуян, Ж. 1999. Тууль хайлах ёсон ба орчин үеийн дүрслэх урлагт туульчдыг дүрсэлсэн нь, *Studia Folclorica* 21(10), Улаанбаатар, pp.53-55.(「叙事詩を語るしきたりと近代絵画に描かれた語り手たち」)
直川礼緒 1993.「アジア中央部の喉歌と楽器」『口琴ジャーナル』no.7. pp.4-7, 日本口琴協会.
等々力政彦 1999.『シベリアをわたる風—トウバ共和国、喉歌の世界へ—』長征社.

B. アビルメド氏略歴

- 1935 モンゴル国西部ホブド・アイマゲ、マンハン・ソム生まれ。アルタイ・オリアンハイというエスニック集団に属する。母方の祖父は有名な英雄叙事詩の語り手、ジルケル。
- 1947 4年制学校卒業
- 1955 ごろ～ 父方の伯父シレンデブの付き人となる
- 1971 革命 50 周年「アマチュア芸能コンテスト」叙事詩部門金メダル
- 1981 革命 60 周年記念「全人民芸術コンテスト」金メダル
- 1982 5月 「労働者大芸術祭」金メダル
12月 第1回「全国伝統芸術祭」金賞
- 1983 「ホブド市開催西部アイマゲ伝統芸術古参芸能者大会」参加
- 1992 国家栄誉賞受賞
- 1998 死去

地図



等々力 p.151 より